



# 『宗鏡録』の対象読者と構成

柳 幹 康

今回は『宗鏡録』の対象読者と全体の構成を見ることで、延寿が人々をいかに悟らせようとしていたのかについて申し述べます。延寿は『宗鏡録』が対象とする読者について、次のように述べています。

わが『宗鏡録』はただ最上根さいじょうこんの人のために編まれたものであり、それ以外の者を対象としていない。その目的はひとえに、仏の系譜を存続させることにある。これまで聞いたことのない素晴らしい教えを読者に開示し、(その教えを残してくれた) 仏の恩に報い、その思いに応えさせるのだ。(『宗鏡録』 卷二六)

これだけを見ると『宗鏡録』は、仏の後継者となりうる最上根(最上の機根)のみを対象としているように見えます。ですが実際の

ところ延寿は、それ以外の人々にも配慮して  
います。次のように言います。

もしも既に（最上根のレベルに）達して  
いる者であれば、仏の意によって印可め  
よう。もしも（その境涯に）未だ至って  
いない者であれば、仏説を用いて（最上  
根に導き）悟らせよう。

（『宗鏡録』巻九二）

つまり『宗鏡録』が「ただ最上根の人のた  
めに編まれた」というのは、あらゆる読者を  
みな最上根に成熟させるという意味であっ  
て、それ以外の機根の者を見捨てるというこ  
とではないのです。

読者をみな仏の後継者たらしめんとする  
延寿の意図は、『宗鏡録』全体の構成にも反  
映されています。『宗鏡録』は三章からなり、

最初の「正宗章（標宗章）」で仏教の真理た  
る「宗鏡」（鏡のように一切をありありと映  
しだす仏の心）を端的に示します。ここで最  
上根はそれをみて取り大悟しますが、それ以  
外の者は理解できず疑念を抱くため、つづく  
「問答章」で想定問答を列ね、その疑問をひ  
とつひとつ解いていきます。そして最後の  
「真詮章（引証章）」で根拠となる仏典を列举  
し、彼らの疑いを完全に除いてやるというの  
です。

このように『宗鏡録』とは、読む者を等し  
く開悟へと導く実践的な宗教書なのでした。  
そのための工夫は全体の章立てのみならず、  
随所に施されています。たとえば巻八〇で  
「このように大きな利益があるのだから、ど  
うして文章が多いことを嫌ったりしようか」  
と述べるように、引用が膨大になることを問  
題視せず、読者のために仏典の要文を漏らさ

ず収録しています。また卷三六で「これは奥深く理解し難いので、全文を引いて証明する」と言うように、先行文献の全文引用も厭いません。更には読者に益ありと見れば、同じ引用文を繰り返すこともあります。このように何としても読者を悟らせたいという延寿の思いが、禅宗史上類い稀な浩瀚こうかんの書『宗鏡録』百巻を生んだのでした。

優れた者には最初の章で悟りをもたらし、そうでない者には続く二つの章で成熟を促す——このような『宗鏡録』を残すことで延寿は、後世の人々を遍く救おうとしました。最後に延寿がその読者に向けたふたつの言葉を用いて、今回の結びと致します。

この『宗鏡録』は、仏教徒であれ異教徒であれ、賢い者であれ愚かな者であれ、ただ見聞きし信じさえすれば、みな例外

なく一心を頓悟し、理（＝仏である己の心）と事（＝仏としての行為）をとともに兼ね備えることだろう。

（『宗鏡録』卷二六）

後世に仏縁を得てこの『宗鏡録』に出会った心ある者は、昼夜を問わず本書を紐解き熱心に読み進めてほしい。悟りを得るまで（何度でも読み返し）、決して途中で「疲れた」と言っ（て投げ出し）たりしないように。（『宗鏡録』卷二六）

柳幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所専任研究所員・専任講師。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による中国仏教の再編』（法蔵館）。

# お願い

## 花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の官製はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

\*ㄆ切りは毎月1日です。

## 花園へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64  
妙心寺派宗務本所内編集室  
俳壇／歌壇／花園 係

\*住所、氏名を必ずお書きください。

\*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

\*なお投稿はお返しいたしません。



「いつもココロに花園を」  
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花園】第67巻 第6号(通巻第790号)  
平成29年6月1日発行(毎月1日発行)  
定価55円

【発行人】栗原正雄

【編集人】島中寿浩

【印刷人】阿部乙彦

【発行所】〒616-8035 京都市右京区花園  
妙心寺派宗務本所 教化センター  
振替／01060-9-1400番  
電話／075-463-3121番

表紙の絵

「よいしょ」



歩きにくいはずなのに…  
わざと大きな下駄を履いてみたい年頃  
なのです。 絵・SAYOKO

妙心寺派ホームページ…………… <http://www.myoshinji.or.jp>  
臨黄ネットワーク(臨濟宗・黄檗宗全般) …… <http://rinnou.net>

『花園』誌一冊送りの年間購読料は、1,560円(送料込)です。  
お申し込み・お問い合わせは頒布課まで。

\*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。